

科

二年 画数 9
筆順
カ 禾 科 科

成り立ち



「斗ます(米などのこくるいをはかる「ます」)のかたちをあらわした「斗」と、「いね」のかたちをあらわし、「こくるい」のいみをあらわした「禾」とをくみあわせてつくった字で、「こくるいをはかり、一ていのりようごとにふくろづめて「くわけ」すること」をあらわしたものです。
「くぶんする」こと。また、「くぶん」といういみにつかわれます。

▽わたしのすきな学科は理科です。百科辞典の中でも、どうぶつやしよくぶつについてかいてあるところをよむのが好きです。

▽内科のおいしやはきんじよにありますが、外科のおいしやはとなりの町までいかなければありません。

熟語例

▽学問(ガク)をくぶんしたものの。学問の科目(モク)

▽科目(モク)は「細目」で「細かいくぶん」のこと。ものごとをくぶんしたもののことをいいます。

▽百科(ヒョク)は「たくさん」のいみ。いろいろな科目、といういみです。百科辞典は、いろいろな科目のいろいろな事をつめいた本です。

▽科学(ガク)は「ものごとをはつきりとくぶんし、すじみちをたててふかくしらべ、だれにもわかるさまりやしきを見つけて出す学問」

▽外科(ゲカ)は「おいしやのくぶんの一つで、きずやびようきをしゆじゆつによってなおすところ」

▽内科(ナイカ)は「しゆじゆつによらないで、びようきをなおすところ」

夏

二年 画数 10
筆順
カ・ゲ
フン
なつ

成り立ち



「あたま」のかたちをあらわし、「あたま」のいみにつかう「頁」と、「あし」のうらのかたちをあらわし、「あし」のいみにつかう「夂」とをくみあわせた字で、「あたまがよくて、あしがたつしやな人」といういみをあらわした字です。

中国の、いちばんはじめの「ていこく」の名まえが、「夏」でした。あたまがよくてよくはたらく「りつぱ」な人といういみでつけたものでしょう。「りつぱ」「さかん」といういみから、一年のうちでくさや木がいちばん「さかん」になる「なつ」をあらわすようになりました。

「カ」は漢音で、ゲは呉音である。「下」「華」なども同じ。]

使い方

▽夏至のころは、一日がとてもながくかんじられます。昼がいちばんながくて、とてもあついからです。

▽夏になると、ものすごくあつくて、ぼくのうちではクーラーをかけます。むかし、クーラーがなかったころは、どうやって夏をすごしていたのかな、とおもったら、おじいちゃんやんが、「むかしは、戸をあけつばなしにして、にわに、うち水をして、暑気をはらったものだよ」と、おしえてくれました。

▽わたしのおねえさんは、初夏がいちばん好きだといえます。木の葉のやわらかいみどりいろを見ると、いのちがもえあがろうとしているようだ、とおもうのだそうです。わたしには、よくわからないけれど、夏がはじまったころの風は、きもちがよくて、好きです。

熟語例

▽夏至(なつ)の至(いた)り、といういみ。昼がいちばんながく、夜がいちばんみじかい日

▽盛夏(なつ)のいちばん暑いころ。真夏(まなつ)
▽夏炉冬扇(なつ)のだんぼううきと、冬の扇(あふ)

いらぬもの